

地域医療院外 BSL レポート

M13075 中井 潤 和歌山県

実習期間:2017年8月21日～9月1日

実習施設:高野町立高野山総合診療所

住所:和歌山県伊都郡高野町大字高野山 631 番地

TEL:0736-56-2911

指導医氏名:廣内 幸雄 先生(1期卒)

田中 瑛一郎 先生(34期卒)

臨床教員(地域担当):竹井 陽 先生(29期卒)

宿泊:蓮華院

1.実習施設とその地域の概要

・“高野山”の概要

高野町は人口約3000人、高齢化率43%の和歌山県北東部に位置する市町村である。高野町は高野山真言宗の聖地“高野山”を中心とする町で、町内には数多くの文化財、建造物が存在している。

そもそも高野山の興りは、中国で真言密教を学んだ空海が西暦816年に嵯峨上皇にこの地を賜り、講堂を建立して教えを広めるために開創したのが始まりである。ゆえに空海が開創をはじめた高野山上が現在も高野町の中心地となっている。昔から文化の根付いた土地であることから、高野山上には真言宗総本山金剛峯寺をはじめとする117の寺院や町家、商店などが並び、また役場、診療所、警察、消防、小中学校、高校、大学まで揃っている。2015年に空海による高野山開創1200年を迎えた際には年間199万人が訪れるなど、全国各地やフランスやオランダなどの諸外国からも数多くの観光客が訪れる観光地としての一面も強い。



高野山のキャラクター こうやくん

・高野山総合診療所の概要

高野山総合診療所は元々高野山病院という入院設備、手術設備も整っている病院であった。しかし、町人口の減少による入院患者数の減少や診療制度の変化、人材確保が困難なことから2012年度より診療所となった。診療所となってからは、外来診療に加えて訪問診療、訪問看護といった在宅医療の強化、通所リハビリテーションなど高齢化の進む地域の需要に応える形に変化・適応している。地域かつ観光地である高野山にあるがゆえに、その基本方針は地域住民の健康増進に寄与すること、と観光地医療における救急医療の確立の2つである。

2.実習内容

●実習予定表

実習日程		
	午前	午後
8月21日(月)	オリエンテーション 訪問看護見学	外来1診見学
8月22日(火)	内視鏡・エコー見学 院内フィールドワーク	外来2診見学
8月23日(水)	放射線、検査見学	外来1診見学
8月24日(木)	南山苑(特別養護老人 ホーム) 嘱託医診察見学	外来2診見学
8月25日(金)	内視鏡・エコー見学	整形外科外来
8月28日(月)	外来2診見学 訪問看護見学	外来1診見学
8月29日(火)	通所リハビリテーション	乳幼児健診 外来2診見学
8月30日(水)	放射線、検査見学 外来1診見学	消防署実習
8月31日(木)	南山苑(特別養護老人 ホーム) 嘱託医診察見学	外来2診見学
9月1日(金)	内視鏡・エコー見学	実習のまとめ

全日 16 時 30 分より画像カンファレンス

●実習詳細と自己評価

・総合診療外来見学(自己評価 B)

総合診療の外来見学では高血圧や糖尿病などの慢性疾患から手術後のフォロー、感冒症状、外傷など幅広い症例を見学できた。また限られた時間の中で正確な診療のためには診察、検査所見、画像検査の読影など、すべてにおいて漏れなく診察・観察できるよう手順を決めて行うことが大切だとよく分かった。40年弱高野山総合診療所に勤めていらっしゃる院長先生が地域で経験された症例を教えていただくことができ、地域に必要な知識は限られたものではなく、その都度勉強していく必要があると感じるとともに、なおさら基礎的なものや典型的な疾患は覚えておかなければ対応していけないと感じた。また機会がある度に採血もすることが出来た。大学病院での採血は翼状針ばかりだったが、診療所では直針かつシリンジによる採血であったため、より刺した後の固定が重要であった。何度か失敗することもあったが、数多く機会をいただいたためうまく固定が出来るようになった。また小外科の診察を見学する機会もあり、傷の洗浄から縫合などの外科的な処置もできる必要があった。救急時にはショックに対する処置と病状の正確な把握をした上で、片道約一時間は要する搬送の依頼を決定しなければならず、その判断能力も磨く必要があると学んだ。

観光客の外国人が診察室に来る場面もあり、診察時には英語やジェスチャーを駆使しながら問診や診察、処置を行っていた。世界的な観光地での医療は英語などによる問診、診察も意識して英語での表現を学ぶ必要があると感じた。

・総合診療外来実習(自己評価 C)

外来見学の際、先生にサポートしていただきながら外来実習をさせていただく機会があった。8

月の後半ということもあり鼻水や咳を訴える感冒症状を診る機会が多かったが、こうした **common diseases** に触れる機会は大学病院での実習ではあまりないので新鮮で勉強になった。また、患者さんに検査をする意味や検査の結果の説明、これからの治療方針などを不安の無いようにしっかりと分かりやすく説明することが、いざやってみるとなると難しかったという経験が出来たことは将来の診療姿勢の改善につながるいい経験ができた。

・訪問看護見学（自己評価 C）

私が訪問看護で見た方でもっとも印象的だったのは、胆管癌の終末期であるが自宅で1人で生活している91歳女性の方である。鎮痛薬が効きすぎてしまうため十分な疼痛コントロールは困難で、病院もあまり行く習慣がないため自身の我慢できる範囲内で痛みと付き合いながら生活されていたが、ADLは十分に自立しておりご自身の希望もあって自宅での生活をできる限りは続けたいとのことだった。おそらく一度体調を崩して入院してしまえばその後の自宅復帰は難しい状況だと思われるので、訪問看護という形でフォローしていくことが大切だと感じた。患者によって様々な要望はあるがその人らしい生活をするためにも訪問看護という形でサポートしていくことは特に高齢者の多い地域住民にとっては心強く、必要なサービスだと思った。

・検査、放射線見学（自己評価 B）

高野山総合診療所の検査、放射線設備は、以前入院設備のある病院であったこともあり充実していた。血算、生化学、尿検査、心電図、X線に加えてCT、スパイロメーター、脈波伝導速度検査装置などの設備があった。診療所では日中は検査技師の方が勤務しており検査をしてもらうことが出来るが、夜間の救急時などはX線、CTの撮影や血液検査などを医師が自ら行うこともあるため、自分でも検査の仕方を理解しできるようになっておく必要があると学んだ。

・事務所見学(自己評価 C)

診療所の受け付け業務やレセプト報酬について教えていただいた。紙カルテであったころは患者カルテの確認から処方箋などまで手作業で行っていたが、電子カルテになった現在ではそうした手間が減り、診察受付から終了後の会計まで効率よく行えるようになったとのことだった。効率よく多くの患者を診るには医師の実力も必要だが、こうした事務関係のシステムを整備することも重要なだと学んだ。

・上部消化管内視鏡、超音波検査見学(自己評価 B)

上部消化管内視鏡は、地域で行うことも多く消化器疾患の検索において重要な検査である。内視鏡画像の正常をしっかりと覚えてうえで、悪性疾患の像も学び見つけることが出来るようしっかりと学んでおく必要があると感じた。また、自分が内視鏡を操作して観察する際には手順を守って、あとから見直しても漏れなく胃全体を観察できるよう記録を残すことが大切だと教わり、模型を使ってその手順を実践することもできた。超音波検査も同じく地域で行うことが出来る重要な検査の一つである。観察できる内容に関しては術者の技術によるところが非常に大きいですが、その精度を向上させていく上でも観察する箇所の順番や観察するとき一面だけではなく多面的に観察することを心がけ、詳細まで見落とさないことが大切だと学んだ。

・通所リハビリテーション見学(自己評価 C)

高野山の通所リハビリテーションは今年度より始まったサービスで、以前は入院設備だった診療所の2階を改装してリハビリテーション施設を作った。リハビリテーションのスタッフは理学療法士1名、看護師1名、介護福祉士1名の計3名であった。リハビリテーションの内容は、踏み台とトレーニングマシン4種類、エアロバイクで筋肉を動かすトレーニングを行い、その前後に理学療法士によるトレーニングが行われる。またウォーターベッドなどが設置されており、リハビリテーション後のケアや体全体の拘縮予防として効果的であると思った。高齢化率の高い地域では、高齢者のロコモティブシンドローム予防対策が非常に重要になってくる。人材確保など難しい面もあるが、高齢者の多い地域でこそ地域での生活を守り支えていく上でリハビリテーションは重要な医療サービスとなると感じた。



・乳幼児健診見学(自己評価 C)

4ヶ月児、10ヶ月児、1歳児の健診を見学した。乳幼児診察では発達段階に沿った成長が見られているかを問診、身体診察で確認していかなければならない。乳幼児にとって診察する医師はおそらく恐怖の対象となりえ、聴診や身体診察を行えば泣く子や、はじめから泣いている子もいた。乳幼児健診は母親の不安が子どもにも伝わってしまうので、不安を感じさせないよう慣れていない間は手早く行う準備を十分にした上で臨むことが大切だと感じた。

・消防署実習(自己評価 B)

今回の消防署実習の時間内には出動がなかったため救急車への同乗はしなかった。消防隊員の方々のご厚意により消防署内の設備、救急車内の設備について説明していただいた。また、降下訓練の体験や災害時の消防隊の装備を実際に着させていただく機会があり、過酷な環境下で人々を救出するために日々鍛錬されていることを身をもって実感した。救急時、災害時は医療者にとっても心強い仲間である消防隊員の方々の勤務内容を知ることが将来地域で働くときにも円滑な関係を保って協力して仕事をしていく上で重要だと学んだ。



・整形外科外来見学(自己評価 C)

地域における整形外科では高齢者の関節疾患や骨折が多かった。高齢者の関節疾患や骨折は避けようのない症状なので、現在の症状や処方中の薬について詳しく説明することや生活していく上での指導が重要だと感じた。また中には地域で働く比較的若年の骨折のフォローもあり、外科的な治療だけではなく仕事もある中での日常生活で何に気を付けていくべきか、どうしていくべきかなど

具体的に指導できる能力も必要だと学んだ。

・南山苑(特別養護老人ホーム)嘱託医診察見学(自己評価 C)

特別養護老人ホームでの診察は週に1回行われており、ホームの職員である介護士や看護師の方としっかり情報共有をしながら診察していた。診察に回った際褥瘡管理や肺炎などの感染症管理が多かった。診察時には介護士、看護師と方針について話し合いながらケアの詳細について相談、決定しており、医師には介護方針の具体的な内容を決めていく役割もあると感じた。また老人ホームで過ごす高齢者にとって医師の診察は自分の体に対して抱える不安の解決につながるものであり、心の支えにもなっていると感じた。また、特別養護老人ホームの新規入居者に関するカンファレンスにも参加させていただいたが、かかりつけ医やかかっている病院からの詳細な情報提供を元に現在の ADL などの状況を評価することや将来的な ADL を予想して医師としての意見を述べる必要があることを学んだ。

3.考察

今回私は2週間高野山総合診療所で実習させていただいたことで地域医療の実際と地域で行われている包括的ケアについて深く学ぶことが出来た。地域医療を提供する立場の医師には、高齢化率が上昇している変わりゆく地域の実情に応じて、地域包括ケアを目指して医療サービスの拡充やそのためのシステムの確立や人材確保など診療以外にもやるべきことが多岐に渡るため、様々な分野の知識や人間関係が必要だと感じた。診療面においては、地域医療で出会う疾患は患者一人一人に独自の病歴があり、患者の数だけ疾患を診るのだと感じた。それゆえに“これを学んでいれば大丈夫”というものは地域医療には存在せず、医師になってからも絶えず学び努力していく姿勢が必要不可欠だということが院長先生の御姿からよく分かった。

地域医療では求められる能力や知識は広く浅く、時には深い部分まで必要になる。地域住民の地域での安定した生活を支える地域医療は患者の疾患だけではなくその人の家族関係など生活背景まで踏まえる“全人的医療”であり、全人的医療を行っていくためには疾患に対する診察、診断、治療だけではなく、患者の不安や事情に耳を傾けることが大切である。その上で医学的知識をわかりやすく説明し、患者の生活に医療を提供する、それが地域医療なのだと感じた。

今回の2週間の実習で得た様々な教訓や貴重な経験を糧として、将来和歌山県の地域医療に貢献し、先生方のように地域住民の心の拠り所となるような信頼される医師になるために、実習や普段の勉強でも将来への目的意識をもって常に精進していきたい。

4.謝辞

高野山総合診療所での2週間の実習で、“地域医療”での診療の実際や医師に求められる能力について詳しく知ることができました。この経験は学生生活、ひいては医師になってからも、目的意識をもって医学やその他の関連事項を学んでいくモチベーションに繋がる貴重な経験となりました。今回2週間のCBLに際し、実習スケジュール調整や宿泊先の確保、実習中にご指導ご鞭撻していただきました廣内幸雄先生と田中瑛一



朗先生をはじめとし、お世話になりました高野山総合診療所のスタッフの皆様、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

また見学させていただきました特別養護老人ホーム南山苑のスタッフの皆様、通所リハビリテーションスタッフの皆様、高野山消防署の消防隊員の皆様、お世話になりましたすべての皆様に感謝申し上げます。

5.参考文献

高野山総合診療所 HP, <https://www.town.koya.wakayama.jp/health/hospital>